

ともだち



人と人との出会いを大切に
笑顔の輪を広げましょう

たかさき し こくさい こうりゅうきょうかい かいほうだい 118 号
高崎市国際交流協会会報第118号

2024.10

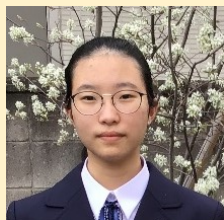
◆トピックス(2024^{ねん}年8月)

■親子国際理解バスツアー^{おや こくさい り かい}

8月22日、東京のJICA地球ひろばと読売新聞東京本社^{ちきゅう よみうりしんぶんとうきょうほん}社を訪問するバスツアーが行われ、市内の小学4年生から中学2年生の親子14組(29人)が参加しました。JICAでは、ウガンダでPCインストラクターとして活動した松田奏^{まつだ そう}さんの話を聞いた後、途上国の現状を紹介する展示を見学。読売新聞では、映像で新聞ができるまでを学んだ後、校閲体験と編集フロアを見学しました。参加者からは「個人では行けない場所へ行けた」「体験的な学びがよかった」といった感想が寄せられました。(青少年育成部会)



機関訪問で学んだ「あたりまえ」の有難さ



8月22日、JICA地球ひろばと読売新聞東京本社を訪問しました。JICA地球ひろばでは、地球案内人の方の協力隊体験談や、SDGsに関連する展示見学をしました。その中で学んだ事は、「関係ないと自分の中で境界線を引かない事の重要性」です。私達が住む日本は、常に安全な水が手に入り、楽しく学校に通う事が出来ます。しかし、国境という一つの線をまたげば、毎日数十キロも離れた場所へ水くみに行き、貧しさから学校へ行けない、そんな生活を送っている人もいます。こうした問題を、私達の生活とは無関係だと切り離して考えているという事は、同じ地球で起こっている出来事を理解していないと等しいのだと学びました。自分の生活との相違点を探しながら出来る行動目標等を立て、世界の課題点に向き合う事が必要なのだと実感しました。この



「物事を線引きしない捉え方」は、これからの学校生活などに活かしていこうと思います。

次に訪問した読売新聞東京本社では、校閲体験や部署見学等、とても貴重な経験をさせていただきました。残像で修正部分を見つけたり、分かりやすい文章にするために締切り寸前

まで話し合って記事を書き直したりと、皆さんの努力が一部の新聞に詰まっていることを実感しました。多くの方の手に渡る物なのだから、分かりやすく正しい記事を作りたい

という記者の方々の熱意が伝わってきました。これから新聞を開くときは、今回感じた記者の方々の熱意を受け止められるように、丁寧に読みたいと思います。

今回の訪問の中で、心が震える言葉に出会いました。それは、地球案内人の方が体験談の最後でおっしゃった「微力だが、無力ではなかった」という言葉です。この言葉を自分の中で繰り返してみると、言葉や文化の異なる土地でのお仕事は、体験談に出てこなかったたくさんのご苦労や葛藤があったのだらうと想像できます。そのような経験から発せられた言葉は「どんなに小さな事でも意味が無い事はない」と、私に大きな勇気を与えてくれました。この言葉を心に留め、地域の奉仕活動等に参加していきたいと思いました。

この機関訪問では、「あたりまえ」という五文字の有難さを感じました。貴重な学びの機会をくださった訪問先の方々、企画してくださった高崎市国際交流協会の皆様、全ての方々に感謝申し上げます。

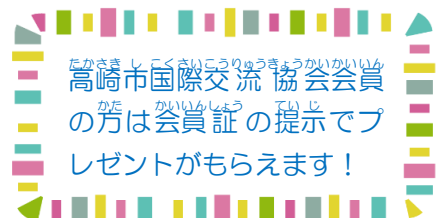
大類中学校1年 ^{うへだ あやの}上田 彩乃



◆おしらせ(2024年10月~12月)

■第32回国際交流の集い

- 日時: 10月13日(日曜日) 午前11時~午後3時
- 場所: ビエント高崎(問屋町)
- 内容: 文化体験ブースや、音楽・舞踊のステージ、世界各国の料理の出店など★詳しくは同封のチラシを見てください。



■写経体験・茶話会

- 日時=12月7日(土曜日) 午後1時~4時
- 場所=慈眼院・一路堂CAFE(石原町)
- 対象=18歳以上の市内在住・在勤者
- 定員=5人(先着)
- 費用=1000円(写経体験・飲み物・和菓子代含む)
- 申込=11月11日(月曜日)から件名に写経体験、本文に名前、ふりがな、電話番号、国籍を書いてメールで事務局へ

◆ボランティア募集

■母語支援者募集

日本語がわからなくて困っている人を、通訳者・翻訳者としてサポートするのが母語支援者です。手伝うのは、運転免許更新の手続き、銀行での手続き、学校の面談、子どもの定期健診、買い物や話し相手などです。ビジネスにかかわることや、病院での通訳はしません。通訳・翻訳の依頼があると、事務局から登録者にメールで連絡がいくので、自分の都合や語学力にあわせて引き受けます。

- 登録条件=次の3点を満たす人①18歳以上の会員②日本語と外国語で読み書き・日常会話ができ、依頼内容にあった通訳・翻訳ができる人③メールで連絡がとれる人
- 登録期間=毎年4月更新
- 活動条件=原則として1つの依頼に対して2時間まで(移動の時間は含めません)の市内での活動です。報酬や経費は支払われません
- 登録方法=事務局で説明を受けてか

~国際交流の集い インターナショナルバザー用品募集~

売上金は「プラン・インターナショナル・ジャパン」(途上国の女の子の自立支援)と「高崎市ウクライナ避難民支援」に全て寄付します

【募集内容】

海外の雑貨や衣料品: アクセサリー、ピンバッチ、ポストカード、置物、カトラリー、Tシャツ、帽子、スカーフなど
和小物: 扇子、箸置き、巾着、手ぬぐい、風呂敷など
※未使用の物をお願いします。※食品(酒類を含む)、化粧品、サイズの大きいもの、古着、本、硬貨は受付不可。

【受付方法】

9月30日(月曜日)~10月9日(水曜日)の間に市役所2階国際交流コーナーへ持参もしくは郵送してください。
※郵送の場合は事前連絡の上、送料の負担をお願いします。※品物は全て無償の提供とし、品名と国名をお知らせください。

■COOL TAKASAKI発信事業

~日本家庭料理教室~

- 日時=12月8日(日曜日) 午前10時~午後1時
- 場所=中央公民館(末広町)
- 内容=Norikoクッキングスタジオの吉田則子さんから日本の家庭料理の作り方を学ぶ
- 対象=市内在住・在勤の外国人
- 定員=12人(先着)
- 費用=1000円
- 申込=11月5日(火曜日)から件名に日本家庭料理教室、本文に名前、ふりがな、電話番号、国籍を書いてメールで事務局へ

ら、所定の登録申込書を提出してください

■多文化講師募集

日本文化や外国文化をよく知っていて、それを積極的に広めたい人が多文化講師として登録をします。登録すると、高崎市内の学校や公民館などへ講師として紹介します。講師の依頼があると、事務局から該当する登録者に連絡がいくので、詳しい内容を確認して、講師を引き受けるか決めます。

- 登録条件=18歳以上の会員で、依頼の内容に応じて協力できる人
- 活動条件=拘束時間、謝金の有無や金額などの条件は、依頼ごとに異なります。条件を確認してから講師を引き受けるか判断できます
- 登録方法=事務局で説明を受けてから、所定の登録申込書を提出してください



『いつまで「外国人労働者」』 ブイ・ティフォンさん（ベトナム）

私はブイ・ティフォンと言います。ベトナムからきました。4年前に技能実習生として高崎の電子部品工場で働き、いったんベトナムに戻りましたが、去年また来日し、今は深谷市の工場で仕事をしています。

『埼玉県の北部、深谷市や本庄市は群馬県みたいなものだ』と、あるテレビタレントが言っていましたから、埼玉県在住でも大目に見てください。

「技能実習生」という制度はもう終わりになります。特定技能や他の資格を取って長く日本で働けるようになってきました。それは日本がお年寄りばかりになって、働く若い人が少なくなり、日本の社会、経済のためには私のような「外国人労働者」が必要だからでしょう。コンビニでもレジは外国人が多いし、飲食店も、そして多くの工場でも外国人がたくさん働いています。しかし、その待遇は充分とは言えないでしょ

う。ヨーロッパやアメリカなどの国では色々な国の人々が力を合わせてその国のため、社会のために働いています。今や日本もそうなるべきで、いつまでも「外国人労働者」という区別をしてはいけないと思います。

技術や言葉はまだ未熟かもしれません。それはこれから努力していきますから、一日も早く、他の日本人の社員と同じように、彼らと「同僚」だと思われたいもらえるように頑張りたいです。文化や習慣の違いを乗り越え、外国人も日本人も一緒に働き、住み、暮らしていける日本になるといいと思います。

（2023年国際交流の集い日本語スピーチ大会より）



ブイさんの コメント



こんにちは。私はブイと申します。技能実習生として日本で働いています。私は大勢の前で話したり、コミュニケーションを取るのがとても苦手です。スピーチは、日本語を学び、自分の弱点を克服するためのチャンスでした。私は参加して、良い経験ができました。

～広報宣伝部会メンバーが読んで質問しました～

Q1.日本語はいつから勉強していますか？

A. 2018年5月から5年間日本語を勉強しています。

Q2.どうして日本の技能実習生に応募したのですか？

A. 一つ目の理由は日本で働きながらお金を稼いでベトナムの家族の生活を助けるためです。

二つ目の理由は日本で働きながら経験や日本語も積み、将来ベトナムに帰ってから日本の会社で働きたいからです。

Q3.日本の生活で感じたカルチャーショックを教えてください

A. 一番のカルチャーショックは日本の大きな都市を歩いているとごみ箱がほとんど見当たらないことです。私の国ではごみを捨てる場所がどこにでもあります。でも日本ではゴミ箱はほとんどないですが、街がいつもとてもきれいです。

Q4.どういう時に「外国人労働者」として見られていると感じますか？

A. 日本語がうまく話せない時や、仕事の中で周りの人から特別な目で見られる時に「外国人労働者」として見られていると感じます。また、文化や習慣の違いで、誤解や違和感を感じた時にもそう思うことがあります。

Q5. 文化や習慣の違いを乗り越えて、日本人と外国人が共生していくためにはお互いどうすればよいと思いますか？

A. お互いに理解し合うことが大切だと思います。まず、日本人は外国人の文化や習慣を尊重し、偏見や先入観を持たずに接することが重要です。逆に、外国人も日本の文化やルールを学び、適応しようと努力することが必要です。また、コミュニケーションを積極的に取ることで、お互いの違いを理解し、共通点を見つけることができると思います。相互の理解と尊重が、共生への第一歩ではないでしょうか？

